

戦争体験 募集によせて

高石市
宮崎 太郎

新聞「とも」で戦争体験を募集されていたので、原稿を書き、編集部の方に聞き取りに来ていただきました。

戦時中は、小学生で終戦では中学生となっていました。人は皆よい思い出を大切に、悪い思い出は早く忘れるようにとめます。

死体の浮かんだ龍神駅(現・南海本線 堺駅)近くの土居川など思い出したくありません。二度と繰り返したくない戦争ですが、小競り合いは永久に続くのではないかと思います。

住まいは、美原町から大阪市内、高石と引越しました。大阪市内にいたころは、小学生30人で寺に避難していました。食べ物は配給で、終戦直後はクーポン券で食べ物と交換していました。卵などは病気になるやいと食べられず、昼はじやがいも2つという状況でした。

「とも」9月号に掲載した戦争体験手記募集を見て、お2人よりお便りをいただきました。もうお1人は次号にて掲載します。

寄稿 私の戦争体験



終戦六カ月前の、昭和20年3月20日午前11時頃、私はその時、学友3人と我が校の近くから帰宅途中で、早朝に大阪・神戸・堺方面で機銃掃射した帰りの様子でしょうか? グラムマン(戦闘機)が前方より見えて、パイロットのヘルメットがまじかに見える状況でした。私たちはあわてて逃げ出しました。

当時、私は岸和田まで通学していました。登校前の午前8時に、空襲警報が出ていなければ、電車が運行しているため登校しなければならず、空襲警報の場合は自宅待機でした。電車で通勤する方も多く、人が電車に群がっており、各部にしがみついて乗っていました。しかし、途中で空襲警報が出されると電車が止まってしまいます。陸橋の途中で停まり、四つんばいになって歩くこともありました。

夜間は、肉眼では見えない高射砲の届かない上空から、B29爆撃機が焼夷弾を投下し、対岸の神戸から明石までの海一面が燃え上がっているのが見えました。また、焼夷弾が雨あられと降ってきて、浜寺病院に焼夷弾が落ち、燃え上るのをまじかに見ました。また、弾丸が貫通したのか、天井から床下まで大きな穴があいていることもありました。

お楽しみクイズ クロスワードパズル

- 応募方法/郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入の上、あて先/〒590-0824 堺市堺区老松町2丁58-1 友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにて郵送ください。
- しめくり/2016年11月9日(水)消印有効
- 当選発表/厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品(図書カード5000円分)を、賞品の発送をもって発表に替えてさせていただきます。
- クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただきます。

タテのキー

- ①兄弟姉妹の息子
- ②危うきに近寄らず

- ③ウイ、〇〇が回ったワ
- ④読みかけの本に――を 挟む
- ⑥――は損気
- ⑧誘い寄せる。工場――
- ⑨財布には百円――だけ
- ⑪――を持って暴漢に立

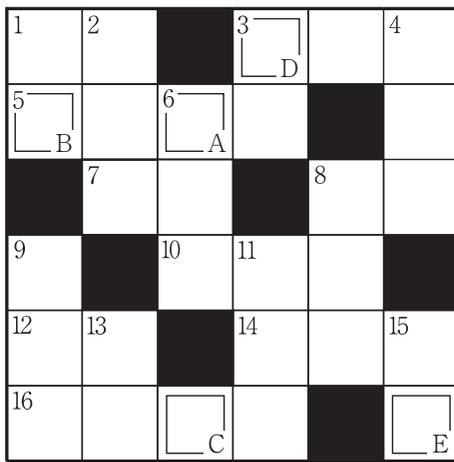
チ向かう

- ⑬兄弟姉妹の娘
- ⑮日本の秋の代表的な花

ヨコのキー

- ①一万×一万＝一〇〇
- ③――端麗
- ⑤借しまれつつ監督を――

カギを解き、二重ワクに入る文字をABC順に並べてできる言葉は何?



タ	イ	シ	ジ	タ
ツ	チ	ヘ	ク	ブ
チ	ヘ	イ	セ	ン
キ	ネ	ン	ビ	ク
シ	ツ	ク	リ	ヤ

●8月号の答「ネットイヤ(熱帯夜)」
●応募数/85通

俳句

二本杖すがりて夫の墓参り
十八の乙女なりしか敗戦忌

青木 光子(南区竹城台)
*戦争はどんなことがあっても二度とはいけないと思います

短歌

夏過ぎて日本北部に上陸す 野分のすごと深く身に沁む
熱風呂の 窓すりぬけて 涼風(すずかぜ)
まさに露天風呂 きぶんゆつたりに

宮崎金次郎(西区草部)
濱田 映美(堺区柏木町)
*句を詠む時の情景や思いもお寄せください。
*俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2016年11月9日(水)です。
*特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。

会員さん紹介 ⑮



高石中央支部
みやうち ようじ さん
宮内 洋治 さん

笑顔のすてきな宮内さんを紹介いたします。

生まれは西成で、父親が小学校の教師をしており、戦時中はまだ幼く、大阪市内から北野田へ家族で疎開していたそうです。戦後、住之江に移り、30数年暮らされてきました。戦後のおやつは芋をふかしたものでした。お腹をすかせていたので、それでもおいしかったそうです。昔の大阪は、一面に葎がはえており、子どもたちはよく水場で遊んでいたとのことでした。

趣味は、仕事をしていたころは、金剛山や葛城山なりました。

抱負は、会員増やし・担い手増やしです。今後、自分も含め高齢になってくるので、若い担い手さんを増やしていきたいとのことでした。

(文・写真 事務局)

編集後記

戦争体験を募集して前月号で戦争体験の記事を募集したところ、お二人より体験記事をいただきました。お二人にとっては思い出したくない体験だったかと思いますが、そういう意味でも貴重な体験をお寄せいただき、ありがとうございます。

戦後、71年が経過しました。私たちは戦争を知らない世代です。しかし、戦争があったことを風化させず、しっかりと受け継いでいかなければいけないと思います。今後引き続き、体験を募集していきます。ぜひ編集部まで記事をお寄せ下さい。(奥村)